

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第1四半期連結会計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| セグメントの名称 | 生産高(千円) | 前年同四半期比(%) |
|-----------|-----------|------------|
| 塗料関連事業 | 1,616,602 | — |
| 自動車製品関連事業 | 3,327,088 | — |
| 合計 | 4,943,690 | — |

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3 その他の事業では生産活動は行っておりません。

(2) 受注実績

当グループは受注による生産は僅かであり、主として見込生産によっておりますので、受注ならびに受注残高について特に記載すべき事項はありません。

(3) 販売実績

当第1四半期連結会計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| セグメントの名称 | 販売高(千円) | 前年同四半期比(%) |
|-----------|-----------|------------|
| 塗料関連事業 | 2,997,786 | — |
| 自動車製品関連事業 | 4,843,316 | — |
| その他 | 3,115 | — |
| 合計 | 7,844,218 | — |

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

| 相手先 | 前第1四半期連結会計期間 | | 当第1四半期連結会計期間 | |
|---------|--------------|-------|--------------|-------|
| | 販売高(千円) | 割合(%) | 販売高(千円) | 割合(%) |
| ㈱中外 | 981,208 | 14.6 | 1,188,978 | 15.2 |
| 本田技研工業㈱ | 667,961 | 9.9 | 839,376 | 10.7 |

- 3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業等のリスク】

当第1四半期連結会計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

(持分法適用関連会社株式の譲渡契約)

当社は、平成22年5月27日開催の取締役会において、当社の持分法適用関連会社であるEFTEC ASIA Pte.Ltd. (所在地 シンガポール) の全株式を譲渡することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結いたしました。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において、当社グループ(当社及び連結会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、中国等アジアを中心とする輸出や生産の増加などを背景に国内の景気は穏やかな持ち直しが見られました。しかしながら、欧州での信用不安や為替の円高基調による警戒感、新車買い替え補助金の終了など景気対策効果の一巡などから、先行きに関しては不透明感が増しております。

このような経営環境のもと、当社グループは、顧客ニーズに合致した環境対応型製品や新製品の開発に取り組むとともに、積極的な受注活動に努めてまいりました。また、固定費削減など収益改善に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、78億4千4百万円(前年同期比16.4%増)となりました。損益につきましては売上高の増加ならびに徹底したコスト低減に努めた結果、営業利益は2億7千6百万円(前年同期は2億5千万円の営業損失)となりました。

経常利益は持分法による投資利益の増加により5億3千8百万円(前年同期は2億8千5百万円の経常損失)、四半期純利益は投資有価証券売却益等により7億3千8百万円(前年同期は2億2千万円の四半期純損失)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

①塗料関連事業

当部門の品種別売上高につきましては、足元の定まらない景気変動の背景もあり、合成樹脂塗料は前年同期比2.1%減少、床材・舗装材は前年同期比7.5%の減少となりました。また、工事関連売上につきましても、マンション等の改修を含め受注工事物件がやや横ばい状況で推移したことにより、前年同期比3.8%と減少しました。一方、防水材は積極的な拡販活動の結果3.1%増加しました。

この結果、当部門の売上高は29億9千7百万円、セグメント利益は4千2百万円となりました。

②自動車製品関連事業

当部門につきましては、当第1四半期における国内乗用車販売台数は新車買い替え補助金等、需要の喚起により前年実績を大きく上回りました。また乗用車輸出台数も世界経済の緩やかな回復によって同様に推移しております。

当部門の品種別売上高につきましては、国内乗用車生産台数の増加により、防錆塗料は前年同期比32.1%増加、制振材は前年同期比35.2%増加ならびに吸・遮音材は前年同期比42.2%の増加となりました。

この結果、当部門の売上高は48億4千3百万円、セグメント利益は2億3千3百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ2億5千5百万円増加し、359億6千1百万円となりました。主な増減要因は、現金及び預金の増加、売上債権の増加、投資有価証券の減少によるものです。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ1億4千2百万円減少し、184億1千6百万円となりました。主な増減要因は、短期借入金及び長期借入金の減少、未払法人税等の増加によるものです。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ3億9千8百万円増加し、175億4千4百万円となりました。主な増減要因は、利益剰余金の増加、その他有価証券評価差額金などの評価・換算差額等の減少によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、28億9千4百万円と前連結会計年度末に比べ7億5千7百万円の増加となりました。

営業活動による資金は、7億2百万円の収入（前年同期比6億8百万円増加）となりました。この主な要因は、減価償却費5億2千6百万円、利息及び配当金の受取額3億2千2百万円、売上債権の増加による減少1億7千1百万円などによるものです。

投資活動による資金は、5億6千4百万円の収入（前年同期比9億8千6百万円増加）となりました。この主な要因は、投資有価証券の売却による収入8億6千3百万円、有形固定資産の取得による支出3億3千6百万円などによるものです。

財務活動による資金の減少は、4億7千6百万円の支出（前年同期比4億5百万円増加）となりました。この主な要因は短期借入金の純増額3億9百万円、長期借入による収入4億5千万円、長期借入金の返済による支出11億9百万円によるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結会計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結会計期間の研究開発費の総額は2億6千万円であります。